

介護福祉施設職員のピロリ菌感染の現状

いずみ 泉 あき 明 お 夫

キーワード：介護福祉施設，ピロリ菌感染

要 旨

介護福祉施設である社会福祉法人みずうみの職員350人のHP感染診断を行い、年代別・性別、職種別、勤務年数別陽性率をそれぞれ検討した。HP陽性者は72人(21%)、男性が25人(23%)、女性が47人(20%)であった。年齢別陽性率は年齢とともに上昇した。職種別では被介護者と直接接する機会の多い直接処遇者はHP陽性率が間接処遇者に比べて高く、勤務年数が長くなるにつれ陽性率が高くなる傾向がみられた。以上のことから介護現場における直接処遇者の被介護者からのHP感染が示唆された。

はじめに

一般的に、H.pylori菌(以下、HP)の感染は乳幼児期の経口感染であり、その介在経路は口-口、糞便-口感染と考えられている。しかし、どのようにして経口感染するのか、感染を媒介するものについて十分に解明されていない。近年では乳幼児期の家庭内感染が主な感染経路であり、成人感染はまれであると認識されている。一方、医療従事者や夫婦感染、施設内感染も報告され、除菌後の再感染も皆無ではなく、成人感染もあると推測される。

介護現場ではHP感染率の高い高齢者の唾液や消化管の嘔吐物、排泄物に接する機会が少なくな

く、介護職員のHP感染が危惧されるところである。

今回、社会福祉法人みずうみの職員350人のピロリ菌感染の現状を調査、介護現場でのHP感染の可能性について検討したので報告する。

対象と方法

2014年9月から12月末までに著者が産業医を嘱託されている社会福祉法人みずうみの職員350人を対象として、公益財団法人島根県環境保健公社にて血中HP抗体測定を用いてHP感染診断をした。血中抗体価はスフィライト H.ピロリ抗体・J (Cut off 値 4.0単位/ml, 和光純薬)にて測定した。

検診に際し、HPに関するアンケート調査を施行した。アンケートから職員のピロリ菌についての認識度、対象者の年代別感染率、職種別による